

第3回三重県農業の将来を考える懇話会  
議 事 次 第

日時:令和8年3月23日(月)

15時00分~17時00分

場所:三重県勤労者福祉会館 6階 講堂

1 開 会

2 議 事

(1) 有識者ヒアリング「農業の生産力強化について」

鳥取県農業生産法人(稲作)

トゥリーアンドノーフ株式会社 代表取締役 徳本 修一 氏

(2) 稲作部会での議論の状況について

資料(2)-1 稲作部会での議論の状況

資料(2)-2 懇話会稲作部会 稲作農業の課題整理の表

資料(2)-3 三重県の稲作等農業者を対象にしたアンケート調査の結果

(3) 県産農産物の販路拡大について

資料(3)-1 県産農産物の販路拡大の取組

(4) 令和8年度の懇話会の進め方について

資料(4)-1 令和8年度の三重県農業の将来を考える懇話会の進め方について

資料(4)-2 三重県農業の将来を考える懇話会「園芸(野菜)部会」について

資料(4)-3 三重県農業の将来を考える懇話会令和8年度の活動計画(予定)

3 閉 会

### 第3回三重県農業の将来を考える懇話会 出席者

日時:令和8年3月23日(月)

場所:三重県勤労者福祉会館 講堂

#### ○懇話会委員

浅井 雄一郎	株式会社浅井農園 代表取締役社長 CEO
小林 陽子	有限会社小林ファーム 役員
中村 吉勝	茶来まつさか株式会社 代表取締役
森 大輔	株式会社ヒラキファーム 代表取締役
山崎 能央	株式会社ヤマザキライス 代表取締役
酒井 俊典	国立大学法人三重大学 特任教授
石川 大祐	株式会社グリーンス 運営本部 執行役員副本部長
クントウレイ	独立行政法人日本貿易振興機構 三重貿易情報センター 所長

#### (稲作部会 参考人)

小島 久典	株式会社小島ファーム 代表取締役
小竹 行哉	株式会社ヤマヨ組 代表取締役
松岡 千恵	株式会社ふぁーむまつおか 取締役

(順不同、敬称略)

#### ○ゲストスピーカー(有識者ヒアリング)

徳本 修一	トゥリーアンドノーフ株式会社 代表取締役
-------	----------------------

#### ○三重県

一見 勝之	三重県知事
枘屋 典子	農林水産部長
神田 和弘	農林水産副部長
岡本 明	農産振興担当次長
湯浅 豊司	農業基盤整備・獣害担当次長
宮口 大平	農林水産政策・輸出促進監
佐々木 健二	フードイノベーション課長
牧田 充弘	農産物安全・流通課長
武 雅宏	農産園芸課長
平野 倫史	畜産課長
庄山 剛史	家畜防疫対策課長
伊藤 知昭	農業基盤整備課長
梅村 竜也	農山漁村づくり課長
森島 武久	農地調整課長
山越 裕	獣害対策課長
谷 耕治	担い手支援課長(事務局)
鈴木 啓史	担い手支援課 副課長兼班長(事務局)

# ① 稲作農業の課題整理

## 稲作部会での議論の状況

稲作農業の将来を見据え、課題を整理して議論を開始

### ■ 整理した課題

人・農地	<p>(1) 担い手の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担い手をはじめ多様な人材の確保・育成が必要</li> </ul> <p>(2) 農地集積・集約化の遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の話し合いを進め農地の集積・集約化が必要</li> <li>・ 農地の大区画化やパイプライン化等の農業生産基盤の整備が必要</li> </ul>
技術・品種	<p>(1) 水稻の生産コストの増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省力化・低コスト化が必要</li> </ul> <p>(2) 1等米比率の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏季の高温対策が必要</li> </ul>
経営・販路	<p>(1) 米の年間消費量の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「結びの神」をはじめとする県産米のプロモーションが必要 など</li> </ul>



## ②課題に対応した先進事例調査

## 稲作部会での議論の状況



### ○農地の大区画化と集積・集約化 (埼玉県加須市)

地権者と耕作者で構成する地域協議会が主体となって、耕作者間の農地交換等の課題解決を進めており、中心的に活動するキーマンの存在が円滑な調整に重要な役割をはたしていました。



### ○省力化・低コスト化 (株式会社ヤマザキライス)

省力化・低コスト化につながることが期待される節水型乾田直播技術を調査しました。圃場の状態や水稻の生育に応じた高度な栽培管理が必要であることが分かりました。



### ○品種構成と高温耐性品種 (鳥取県、JA全農とっとり)

鳥取県が開発した高温耐性品種「星空舞」は数年で1,500haに拡大した実績があり、ブランド化戦略等について調査しました。地域ごとの生産者研究会による栽培技術・品質向上の取組のほか、メディアを使った認知度向上の取組が効果をあげていました。

## ③将来の稲作農業に向けた議論

## 稲作部会での議論の状況

### 20年、30年後の本県稲作農業についての議論

#### ■出された意見

<p><b>人・農地</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模経営を行うには、<u>労務管理等が充実した会社組織となる</u>ことが必要であり、そのためには<u>経営者の育成が不可欠</u>。何かあった時のM&amp;Aも可能となる。</li> <li>稲作農業者が減少することは確実であり、<u>若い担い手の育成に力を入れていくべき</u>。</li> <li>今後、少ない稲作農業者で三重県の水田を担わなければならず、<u>更なる機械化とそのベースとなる基盤整備が必要</u>である。</li> <li>担い手不在地域では、農地を守る取組としてJA自らが農業経営を行うことも必要と考えている。</li> </ul>
<p><b>技術・品種</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水型乾田直播、再生二期作を普及するうえで、<u>農業者が正しい知識と技術を身に着ける必要があるため、県から必要な情報等を提供してもらいたい</u>。</li> <li>米の新しい<u>高温耐性品種の導入が必要</u>と考えるので、<u>コシヒカリとの差別化、ブランド戦略など、JAグループと意識統一しながら取り組んでほしい</u>。</li> </ul>
<p><b>経営・販路</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>「結びの神」について、量販店からの情報では消費ニーズがあるとのことから、栽培基準などの要件も見直したうえで拡大を図るべき</u>と考える。</li> </ul>

## ④議論を踏まえた次年度以降の取組

## 稲作部会での議論の状況

### ・議論の総括

- 「若手農業者の確保」「企業的経営を行える農業人材の育成」「スマート農業化の促進」「新しい栽培技術・品種の導入」「担い手不在地域・条件不利地域への対応」などへの取組が必要。

次回の会議では、委員から頂いた意見もふまえ、事務局でビジョンのたたき台を示して、それをベースに議論を深めていきたい。

### ・議論を受けて県で事業化したもの

#### ➤ 節水型乾田直播技術の実証

農業研究所や普及センターにおいて技術の検証や現地実証を実施します。

また、農業研究所は国のコンソーシアムへの参画を調整しており、水管理や除草体系等の、現地導入に必要な技術を構築・評価する取組も検討しています。

#### ➤ 農地の集約化モデルの実証

時間と手間を要する合意形成を効率的かつ計画的に進めるため、AI等のデジタル技術を活用して事務作業を省力化するなど効率的な集約化の手法について、モデル地区設定して実証に取り組みます。

	背景	課題/懸案事項	他県の事例	三重県及び県内の取組	新たに進めるべき方向性や、必要な取組 (R8年度に実施する取組含む)
人・農地	<p>【担い手の急減と高齢化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基幹的農業従事者は減少し続け、約8割が65歳以上という深刻な状況です。特に5～10年後には現状の担い手が半減するとの予測もあり、農地の受け皿がなくなる危機的な状況が目前に迫っている。</li> </ul>	<p>【多様な担い手の確保・育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「稼げる農業」を実現し、新規就農者や企業の参入促進が必要。</li> <li>●小規模農家が農業機械を更新・利用できるよう、JA等と連携した支援や共同利用の仕組みの構築が必要。</li> <li>●5年後の担い手半減を見据えた緊急的な行動計画を策定し、喫緊の課題の対応が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岐阜県JAいび川担い手サポートセンター（水田農業のオペレータ養成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規就農者や企業参入による担い手の確保に向け、フェアや相談会などの実施。</li> <li>●新規参入や規模拡大等をめざす法人や個人を対象に農業ビジネスプランコンテストを開催し、農地バンクを通じ優秀者に農地を貸付</li> <li>●認定農業者等の担い手が不在の地域で営農する小規模な農業者を対象とした機械導入を支援</li> <li>●農業支援サービス事業者の立ち上げ、取組拡大への支援を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域をけん引する担い手の育成、労働環境改善による農業従事者の確保（事業）</li> <li>●農業ビジネスプランコンテストへの参加者の需要に応えられるよう、紹介できる農地の規模の拡大を目指す</li> <li>●担い手が不在の地域で営農する小規模な農業者を対象とした機械導入の支援に取り組む</li> <li>●機械整備への投資が難しい小規模農業者の営農継続のため、農業支援サービス事業者を育成</li> </ul>
	<p>【農地集積の遅れとほ場整備の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●担い手への農地集積率は年々上昇しているものの全国水準より低く、地域計画の地域内の農地のうち、将来の耕作者が未定の農地が4割程度存在する。また、圃場整備から年月が経過し、小規模な区画や用排水兼用の水路が多い地域では、スマート農業技術の導入や効率的な水管理が困難になっている。</li> </ul>	<p>【生産基盤整備の革新】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地権者の合意形成を円滑にするため、耕作者主導で整備を進められるような仕組みを検討することが必要。</li> <li>●地域計画の策定の加速的な推進が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●埼玉県杉戸町：畦畔除去による大区画化</li> <li>●埼玉県加須市：各地区で農地の集積・集約を推進する協議会により、円滑な農地の流動化と併せて畦畔除去による大区画化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大区画化等加速化支援事業や農地耕作条件改善事業を活用し、法人等の農業者が自ら行う畦畔除去等の簡易整備による農地の大区画化等の取組を支援</li> <li>●農地の集積・集約化を進めるため、「地域計画」を516地区（R7.11末）で策定（耕地面積カバー率62%）</li> <li>●県、農地中間管理機構、農業委員会等関係機関により構成する農地中間管理事業推進チームが、策定に向けた地域での協議に参加し、他地域での策定事例の紹介等の助言を行い策定を支援</li> </ul>	<p>農地の大区画化と集積・集約化の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き、大区画化等加速化支援事業や農地耕作条件改善事業を活用し、法人等の農業者が自ら行う畦畔除去等の簡易整備による農地の大区画化等の取組を支援</li> <li>●効率的な農地の集積・集約化の仕組みづくりの構築に向け、農地所有者、担い手等の利害関係者の意向把握や調整の手続について、デジタル技術の活用等による効率化を検証し、導入を図る</li> </ul>
	<p>【最新技術の基盤整備の停滞】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●他県で導入されている地下かんがいシステム等の先進的な基盤整備が進んでいない。地権者の無関心などにより、合意形成が難しく、整備が進まない構造的な問題がある。</li> </ul>	<p>【重点的なインフラ整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地下かんがいシステムなど、省力化・作業性の向上・生産安定をすることで収益性向上を目指す先進的なインフラへの重点投資を行うことが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地下かんがいシステムの導入：岩手県、山口県他</li> <li>●自動走行トラクターシステムの実証：北海道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スマート農業技術に対応した基盤整備の手引書を作成することで、農業者等へ普及・啓発を促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き、スマート農業技術に対応した基盤整備の手引書を作成することで、農業者等へ普及・啓発を促進</li> </ul>
技術・品種	<p>【気候変動による品質低下】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●夏期の高温が常態化し、特に主力品種である「コシヒカリ」の1等米比率は19.6%（令和5年産）と全国を大きく下回り、品質と収益性の低下が深刻です。</li> </ul>	<p>【品質の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●三重県における1等米比率を上昇させるために、高温耐性品種などの導入が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高温耐性品種の導入 全国：にじのきらめき 滋賀県：みずかがみ 新潟県：極早生品種「新潟135号」（令和8年産から一般栽培）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高温耐性品種の導入（結びの神（三重23号）、なついろ、にじのきらめきなど）</li> <li>●耐暑肥（登熟期前の施肥）や登熟期の水管理（間断冠水）の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな高温耐性品種の開発及び導入</li> <li>●高温でも品質の良い栽培方法（節水型乾田直播）の実証や普及</li> <li>●結びの神について、要件見直しなどにより作付推進</li> <li>●その他既存の高温耐性品種についても作付推進</li> </ul>
	<p>【根強い「コシヒカリ」の栽培】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生産者・消費者ともに「コシヒカリ」へのこだわりが強く、高温耐性を持つ「にじのきらめき」等の新品種への転換を妨げる一因となっている。</li> </ul>	<p>【品種戦略の再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「コシヒカリ」一辺倒から脱却し、高温耐性や多収性を持つ「結びの神」や「にじのきらめき」等の戦略的な品種転換を生産者・流通・消費者へ働きかけが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「星空舞」（鳥取県）の取組 生産を開始してからわずか5年程度で1500haの作付けを実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「結びの神（三重23号）」などの高温耐性品種の作付面積の拡大に向けて、補助金の交付や栽培技術の啓発などの実施</li> <li>●「結びの神（三重23号）」の消費拡大のためのイベント等を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県内で栽培されている品種の構成の整理</li> <li>●コシヒカリでは、近年の夏季の高温による障害が多発することから、高温でも品質・収量が良い新品種を導入</li> <li>●米の消費促進に向け「結びの神（三重23号）」を含め、今後、導入する高温耐性品種について、メディアなどを活用した消費者向けPRを実施</li> </ul>
	<p>【水不足のリスク増大】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今後、水不足が懸念される状況下では、従来の湛水管理が困難になり、安定生産が脅かされる。</li> </ul>	<p>【気候変動や省力化・低コスト化に対応する新技術の導入・普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●水の使用量を大幅に削減し、高温下でも品質を維持できる「節水型乾田直播」のような革新的な栽培技術の実証と普及を県として推進が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●節水型乾田直播 埼玉県：（株）ヤマザキライス 鳥取県：トウリーアンドノーフ（株）など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一部の地域で民間主導で節水型乾田直播の実証（令和7年産から）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三重県において、令和8年度に節水型乾田直播の実証試験を行う計画</li> <li>●実証による結果を検証し、三重県に適した節水型乾田直播技術等を導入・普及</li> </ul>
	<p>【「儲かりにくい」農業構造】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●機械の購入・維持費や資材価格が高騰する一方で、価格転嫁が難しく、利益を確保しにくい構造が新規就農や規模拡大の障壁となっている。</li> </ul>	<p>【省力化・低コスト化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ほ場センシングシステムによる栽培管理、ドローンによる病害虫防除や追肥など、スマート農業技術の導入を支援し、省力化と低コスト化を実現することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JA秋田しんせいではザルビオフィールドマネージャーを活用した可変施肥試験などを実施。</li> <li>●富山県（富山県農林水産公社）では、スマート農業に関する知識等を習得するため、ドローンやラジコン草刈り機などスマート機器実演や講義を実施するとともにスマート機器の貸し出しを実施</li> <li>●再生二期作 農業・食料産業技術機構（農研機構）では「にじのきらめき」で約950kgの収穫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一部の大規模農家等では、ドローンによる防除、収量コンパインの活用、上空からの撮影による生育診断などが実施</li> <li>●スマート農業を推進するため、普及員などの啓発・普及やスマート機器導入の補助金などを支援</li> <li>●一部の地域で民間主導で再生二期作を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き、スマート農業を推進するため、普及員などの啓発・普及やスマート機器導入の補助金などを支援</li> <li>●スマート農業に係る情報収集及び啓発・普及</li> <li>●三重県において、令和8年度に再生二期作の実証試験を行う計画</li> <li>●実証による結果を検証し、三重県に適した再生二期作技術等を導入・普及</li> </ul>
経営・販路	<p>【県産ブランド米「結びの神」の伸び悩み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●県産ブランド米として開発されたものの、厳しい品質基準や栽培の縛り、価格が伸びないといった理由から生産者に敬遠され、作付面積が伸び悩んでいる。品質が高く高温にも強いことから「もったいない」との指摘もあり、ブランド戦略が機能していない状況です。</li> </ul>	<p>【「結びの神」のブランド再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●栽培要件の緩和や新たな販売戦略を検討し、生産者が「作りたい」と思える品種へと見直すことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道の「ゆめぴりか」について、タンパク質含量6.8%の基準を7.9%に見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「結びの神（三重23号）」を生産するための手続きを簡素化</li> <li>●消費拡大のためのイベントを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「結びの神（三重23号）」の要件（1等米、タンパク質含有6.8%以下、三重の安心食材認定）や流通経路に係る見直し</li> <li>●米の消費促進に向け「結びの神（三重23号）」について、メディアなどを活用した消費者向けPRを実施（再掲）</li> <li>●JAグループの協力による適正な単価の設定</li> <li>●結びの神にかかるキャンペーンを実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その他</li> </ul>	<p>【「カッコいい農業」のイメージ構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スマート農業や環境配慮型農業といった先進的な取り組みを積極的に発信し、若者にとって魅力的で将来性のある産業としてのイメージを確立することが必要。</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三重県産の米について、PR動画をユーチューブにアップロードしており、県内小中学校、中学校の教材に使えるように県教育委員会に依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SNSなどのメディアを活用して若者世代にたいして、三重県の米の魅力（環境にやさしい栽培方法など）を実施していることなどを発信。</li> <li>●小学校・中学校などにも同様に三重県の米の魅力を発信</li> </ul>

## 三重県の稲作等農業者を対象にしたアンケート調査（概要）

- ・ 調査対象 本県で主に米を生産する主要な担い手農業者（稲作等農業者 119 経営体）
- ・ 調査方法 アンケート調査様式を調査対象者へ郵送し回答を収集（回答率：61% 72 件）

## ①稲作等農業者の経営面積について

主要な稲作等農業者の中においても、少数の農業者で特に経営面積の拡大が進んでおり、全体の耕作面積の多くをカバーしている傾向

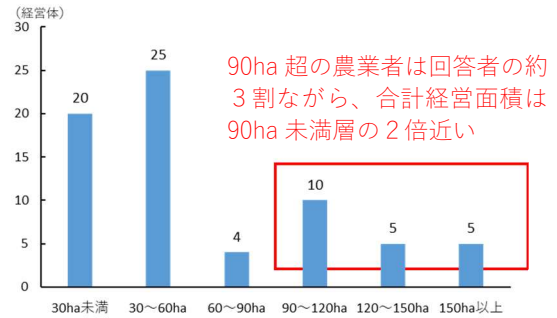


図. 稲作等農業者の経営面積（回答=69）

## ②農地の集積・集約化を進めるうえでの障壁（複数回答）

「農地の条件不利（小規模、不整形）」（63%）が最も多く、物理的な圃場条件の改善が最も強く求められている。

次いで「地域の合意形成の難しさ」（53%）と続き、人的な障壁も大きい。

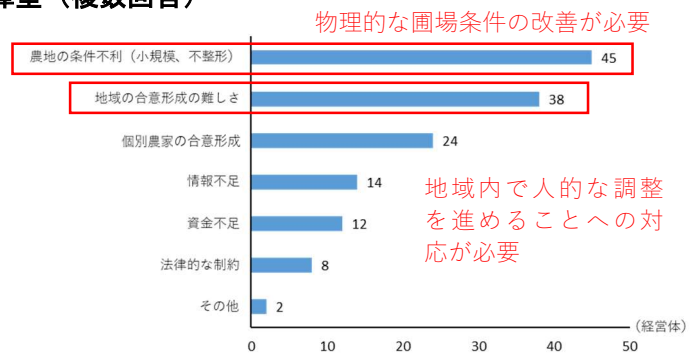


図. 農地の集積・集約化を進めるうえでの障壁（回答=72）

## ③稲作等農業者が今後導入したいと考える農業技術（複数回答）

「水管理システム」（31%）

「自動操舵システム」（28%）

「ロボット草刈」（28%）

など省力化技術が上位を占めた。

また、「新品種」導入も関心が高かった（多くの回答で高温耐性品種の導入が挙げられた）。

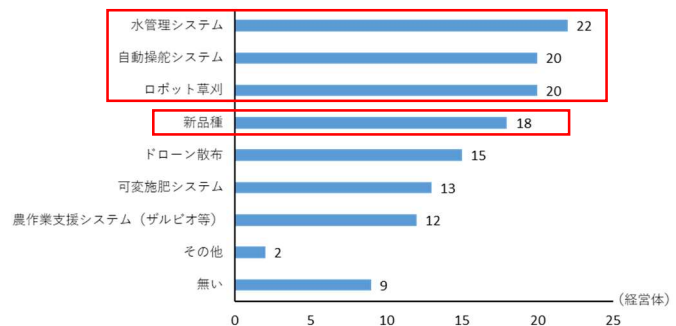


図. 今後導入したいと考える農業技術（回答=72）

# 県産農産物の販路拡大の取組

- 農産物のPR・認知度向上
- 地産地消
- 旅行・観光業など他産業との連携
- インバウンド
- 海外への輸出

# 農産物のPR・認知度向上 ①

## 「結びの神」をはじめ県産米のPR



### 「県産米の魅力発信イベントの開催」

- ・県内量販店や三重テラスで「結びの神」の試食会を開催
- ・阪急梅田駅での三重県物産展内でPR

## 県産花き花木の需要拡大



### 「消費者・実需向けイベントの開催」

- ・植木まつり(4月、10月)や花とみどりのふれあいフェスタ2026(12月)等の消費拡大イベントを開催
- ・植木産地が取り組む実需向け商談会(9月)を支援

## 県産イチゴの販路拡大に向けたプロモーション



### 「新品种「うた乃」の首都圏等でのプロモーション」

- ・イチゴの日(1/15)に三重テラスでの販促活動や実需者との商談会、いちご大福ワークショップを実施
- ・百貨店での販促活動や飲食店との商談を実施

## 県内ホテルでの飾花展示



### 「志摩観光ホテルで花きをPR」

- ・第44回全国豊かな海づくり大会の開催(11/8)にあわせ志摩観光ホテルで県産花きの飾花展示

## 農産物のPR・認知度向上 ②

### 伊勢茶を体験する機会づくり



#### 「イベントで伊勢茶をPR」

- ・大阪・関西万博「美し国彩り三重バザール」(三重県茶業会議所と連携)、全国豊かな海づくり大会、その他各種イベントにおいて試飲会を実施。約3万杯の伊勢茶を提供

### 新たな世代へ向けた伊勢茶のPR



#### 「未来の伊勢茶ファンづくり」

- ・県内高校での伊勢茶講座を実施
- ・高校生が考える伊勢茶アイデアコンテスト「Ise Cha Promotion Award」を開催

### 伊勢茶の活用拡大の促進



#### 「県内飲食店で伊勢茶メニューキャンペーン」

- ・県内飲食店の伊勢茶メニューの開発を支援
- ・開発した伊勢茶メニューを県内飲食店154店舗で提供  
伊勢茶のケーキ、まんじゅう、うどん等が提供  
幅広い消費者に伊勢茶をPR

### 大都市圏でのテストマーケティングの実施



#### 「三重マルシェの開催・ブース出展」

- ・メディア主催の大規模イベントへのブース出展
- ・JR大崎駅南口における「三重マルシェ」の開催  
トマト、果樹、伊勢茶など11事業者が出展

# 地産地消

## 地産地消の推進



### 「みえ地物一番キャンペーン」

- ・毎月第3日曜日とその前日の土曜日に「みえ地物一番の日」を開催
- ・県産品を取り扱う事業者の皆さまとの協力により実施



### 「社食で食育・地産地消推進」

- ・県産食材を取り入れたヘルシーメニューの提供や、手作りのPOPやポスターでPRを実施

## 県産食材の魅力発信



### 「みえ青春マルシェ」

- ・県内高校生のアイデアを生かし、直売所や道の駅等に専用コーナーを設置して、イベント等でのPR活動を実施



### 「みえの安心食材のキャンペーン」

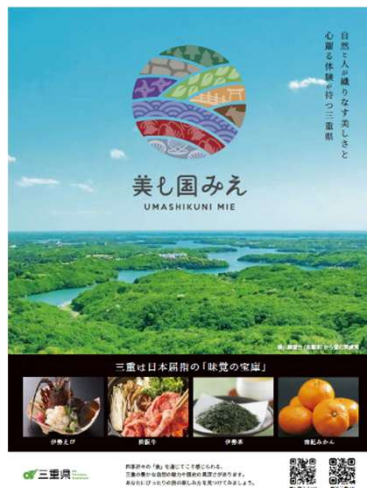
- ・安心食材表示制度の認知度向上を実施
- ・プレゼントキャンペーンおよび県内5店舗でイベントを実施

# 旅行・観光業など他産業との連携 ①

## 旅行・観光産業との連携による魅力発信



旅するメーカーズディナー 美し国みえ



JAL機内誌12月号

### 「航空事業者との連携」

- 三重県と連携協定を結ぶJALと連携
- 東京大手町のレストランで、県産食材を使った特別なメニューを提供する「旅するメーカーズディナー美し国みえ」を開催
- 知事によるプレゼンや、生産者を紹介するビデオにより、三重の食と旅の魅力を発信(2026.2.1)
- JAL国内線機内誌12月号への情報掲載や、JALふるさとプロジェクトYouTubeでの北勢エリアの紹介
- JALの連携する東京のレストラン2店舗での「三重県誕生150周年記念フェア」の開催

## 県産農産物のブランド力強化



### 「商品プレゼンテーション(Pitches)交流会」

- 農林水産事業者と県内外のシェフ・バイヤー等との交流会「みえFoodCulturePitches」を開催
- 事業者を対象に、ブランディングや商談スキルについて学ぶ機会を提供し、当日のプレゼン、試食交流会にてシェフからの評価などを共有
- シェフと事業者とのマッチングや、シェフによる事業者の訪問実施など、販路につながる可能性が期待

# 旅行・観光業など他産業との連携 ②

## 農産物流通に係る鉄道事業者との連携



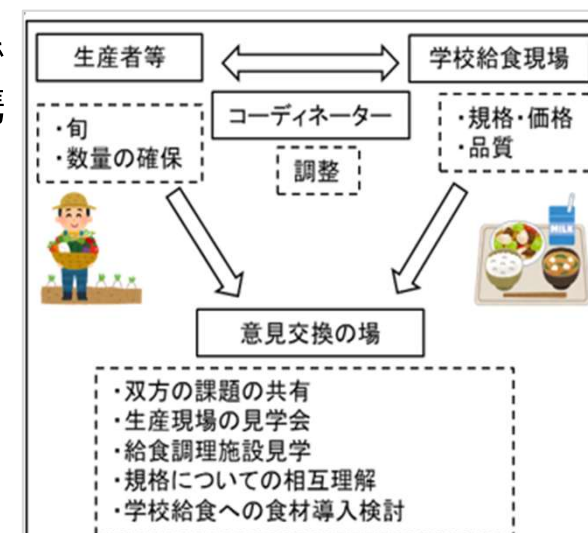
### 「新たな流通モデル構築事業」

- ・鉄道を活用した貨客の混載など、小ロットの出荷でも効率的に輸送する新たな流通モデルの構築に向け、試行

## 学校給食への活用に向けた関係事業者との連携

### 「地場産物の学校給食での活用等に向けた連携モデル事業」

- ・生産者や栄養教諭、給食事業者、流通・加工事業者などで課題を共有、導入に向けた検討を促進



## 食品等事業者との連携による新商品・メニュー開発



### 「低利用食材の利用拡大」

- ・獣害で捕獲された鹿などで、県内高等学校および県内食品等事業者と連携して、新商品・メニュー開発や、消費者への「食べる環境対策」を推進

## 新たな食品ビジネスの創出



### 「新たな食品ビジネスの創出と実証支援」

- ・研修会や交流会の開催を通じて事業者のマッチング
- ・消費者のニーズや行動に合わせた食品ビジネスの創出や新商品等開発、販路開拓等を支援



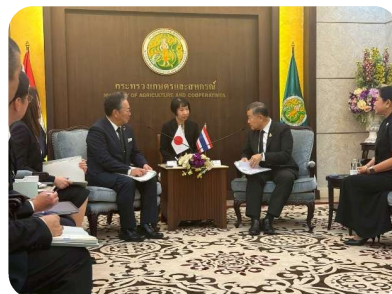
# 海外への輸出 ①

## カンキツの輸出拡大に向けた取組



### 「タイ王国へのカンキツの輸出拡大に向けた取組」

- ・海外バイヤーを招聘し、産地で温州みかんのプロモーションを実施
- ・海外への果実の輸送時に品質を低下させないための研究を実施



### 「カンキツのプロモーションとトップセールス」

- ・観光誘客イベントでの温州みかんを使ったメニュー提供やみかんジュースの試飲を実施
- ・タイ王国農業・協同組合省を訪問し、カンキツの輸出拡大について要望

## 伊勢茶の輸出拡大に向けた取組



### 「海外への輸出ルート開拓」

- ・海外販路拡大に向け、海外バイヤーの招聘による伊勢茶のプロモーションを実施



### 「台湾における伊勢茶プロモーション」

- ・伊勢茶の輸出促進に向け、3月に現地でトップセールス
- ・インバウンド誘客に向けた観光セミナーでPR
- ・現地飲食店等との商談会を開催

## 海外への輸出 ②

### 県産ブランド和牛の海外での販路拡大



#### 「新規輸出国等でのPRイベントの開催」

- ・ 県産和牛の実需者を対象に、PRイベントの開催を支援
- ・ 昨年度はフランス、シンガポール、今年度はイタリア、フィリピン、オーストラリアにおいて試食PRイベントを実施



#### 「カッティングデモンストレーション等の実施」

- ・ 高級レストランのシェフ等に活用してもらえるよう、県産ブランド和牛の美味しさの科学的説明  
和牛肉のカッティング技術の実演  
現地の食文化に合った和牛メニューの提案を実施

(案)

## 令和8年度の三重県農業の将来を考える懇話会の進め方について

## 1 品目別部会の追加について

「三重の未来農業ビジョン」の策定に向けた議論を加速するため、令和8年度に重点的に議論する品目(品目別部会の設置)について、新たな品目を追加します。

- ・稲作部会の継続に加え、新たに園芸(野菜)部会を設置したい。
- ・資料(4)-2

## 2 令和8年度の懇話会本会および部会の開催スケジュールについて

- ・資料(4)-3

## 3 その他

- ・懇話会開催・運営事務の外部委託について

事務局では、懇話会本会および部会の開催に係る事務の一部について、外部機関への委託を検討しています。委員の皆さまへの連絡や日程調整等について委託事業者からご連絡することもございますのでご了承ください。

## 三重県農業の将来を考える懇話会「園芸(野菜)部会」について

### ●園芸(野菜)部会設置の趣旨

本県の耕種分野の農業産出額に占める割合は米が29.1%で最も大きく、次いで園芸(野菜)が12.3%となっており、収益性の高い園芸(野菜)分野の振興により、新たな担い手の参入につながるとともに、本県の農業産出額の拡大が期待できます。

このため、将来を見据えた本県の園芸(野菜)振興を考えていくうえで、新たに進めるべき方向性や取組について検討が必要であることから、地域を牽引する生産者や有識者等から専門的な意見をいただきたい。

### ●議論すべきポイント

本県の20~30年先の園芸(野菜)が、本県の特性を最大限に生かした中で、振興すべき生産スタイル(露地野菜・施設野菜、青果用野菜・加工用野菜等)・品目(キャベツ、トマト、イチゴ等)、育成すべき人材、導入を推進する技術、気候変動への対応、高付加価値化につながる取組などについて議論する。

### ●園芸部会の進め方

年3回程度(1回現地調査含む)

R 8	懇話会	稲作部会	園芸部会
4月			
5月			園芸部会① ・議論の方向性検討
6月			
7月		稲作部会① ・稲作ビジョンたたき台	
8月	懇話会① ・稲作ビジョンたたき台 ・園芸部会の検討状況		
9月			園芸部会② ・現地事例調査
10月			
11月		稲作部会② ・稲作ビジョン中間案 ・8年度現地実証状況の報告	
12月	懇話会② ・稲作ビジョン中間案 ・園芸部会の検討状況		
1月		稲作部会③ ・稲作ビジョン最終案	園芸部会③ ・議論のとりまとめ
2月			
3月	懇話会③ ・稲作ビジョン策定 ・園芸部会の検討状況 ・R9年度(設置部会等)について		

- ・令和8年度以降も懇話会での議論を継続していく ⇒今後3年間程度をかけて議論
  - ※ 「懇話会本会」に加え、品目を特定した部会(主要な品目2部会)を設置
  - ※ 「稲作部会」については、令和8年度も検討を継続させていただきたい
  - ※ 品目を特定した部会として新たに「園芸(野菜)部会」を設置したい